

「村山ふるさと教育の森植樹体験」に参加しました

令和6年6月4日(火)から6日(木)までの3日間にわたり山形県村山市の山ノ内地区にある国有林にて開催された、「村山ふるさと教育の森植樹体験」に参加しました。

山形県村山市は、国が提供した土地に国以外の方が造林者となって、その後の収益を国と一定の割合で分収する分収造林制度を利用して「ふるさと教育の森」事業を実施しています。市内の中学校の生徒全員が自ら苗木を植え、育てるという体験学習を通じて、自然や森林の大切さを学び、ふるさとに対する愛着心を育むとともに、体験の中で「いきる力」を育てることをねらいとして開始されたもので、本年度43回目を迎えました。

村山市内の葉山の中腹にある国有林に設定された分収造林地には、昭和57年以降延べ約3万8千人が参加して、約27ヘクタールに約7.2万本の苗木が植栽されています。

植樹活動は6月4日から3日間にわたり計画され、いずれの日も穏やかな天候に恵まれました。1日目と2日目は楯岡中学校、3日目は葉山中学校の生徒が、唐鍬(とぐわ)を主に使用しディブル(地面に突き刺して植穴を開ける器具)も活用し、スギやブナの苗木を植林する作業を体験しました。

各日とも指導者の代表者(1日目は山形森林管理署長、2日目は北村山森林組合の代表理事組合長、3日目は村山市林業クラブ会長)よりあいさつがありました。山形森林管理署長からは、森林の重要性や、森林になるまで長い年月がかかる事などについてお伝えしました。

森林管理署では植林の方法の指導や安全指導など、息の長い取組のお手伝いをさせて戴いております。そして、懸命に唐鍬で植穴を掘る生徒さんの姿から、森づくりへの認識を一同新たにしました。

